ジェットボーイたけし

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ジェットボーイたけし

【Ｎコード】
Ｎ６２５４Ｌ

【作者名】
ごはんライス

【あらすじ】
２０枚です。鉄腕アトムみたいなのをイメージしていただけるとわかりやすいです。うーむ。これ、５０枚くらいがいいかなあ。

1

『鉄腕アトム』みたいなんを想像していただけると、わかりやすいです。【作者】

「きゃあああ。助けてええ」
「こらっばあさん。わめくな」
「おっぱいもまれるうううう」
「もまん！　カネさえよこせば何もせん！」
「助けてえええ」
ジェットボーイたけしの主題歌が聴こえてくる。

♪ゆけゆけ　たけし
悪いやつをやっつけろ
うっかり胸のボタンを押してしまった
原爆機能作動だ
どおおおおおん
いい人も悪い人も　数百万人が犠牲だ
ドンマイたけし　気にすんなよたけし
明日には明日の風が吹く
ゆけゆけ　たけし
世界平和のため
今日も適度に働け

足からジェット噴射。たけしがすごいスピードでやってくる。ばあさんが叫ぶ。「たけしや！　ジェットボーイたけし様や！」
「な、なにい」
たけしは勢いがよすぎて、電柱に激突した。

「あああああああ」
落下するたけし。
「うわあああ。こっち来るなあああ。たけし様あああ」
「ぎゃふん！」
ばあさんが下敷きになった。「お、重い。たけし様、どいておくれぇ」
「チャンス！」
悪者がばあさんのバッグを引ったくり逃走した。
「おのれ」
たけしは、ばあさんの背中を踏んづけ飛び立った。ジェット噴射。かっこいい！
「うぎゃ！」
また電柱に激突した。ああん。たけしのバカ！
悪者は路上駐車していた車のカギを壊し乗り込んだ。すごいスピードで飛ばす。
「おのれ」
たけしは飛んで追いかけようとするが、あれれ。ジェットが壊れてる。電柱に激突した衝撃で故障したようだ。飛べない。
「おのれ」
たけしは路上駐車してあった自転車のカギを壊し、飛び乗った。すでに正義じゃなくなってる気もするが、気にしないのがたけしのいいところ。
「悪いとこだろ！気にしろ！ワン！」
思わず叫んでしまう野良犬。
たけしは自転車を立ちこぎし、飛ばしに飛ばすが、当たり前、車に追いつくわけがない。自然の摂理！
「おのれ。はあはあ。おのれ」
おのれおのれやかましいな。
たけしはパワーを出すためにポケットから怪しい薬を取り出し飲んだ。

パワー倍増になるかと思いきや、気持ちよくなってきてフラつき電柱に激突。たけしのアホー！

たけしはそのまま意識不明となった。

2

たけしが気づいたとき、たけしはあたりを見渡した。
「どこだ。ここは」
「わいわいがやがや」
制服着た中学生がたくさんいる。
白衣を着た先生が教壇から言う。
「はいはい。みなさん。静かに。今からカエルの解剖をしますが、カエルはちゃんと持ってきましたかー？」
「はーい」
な、なにいいい。たけしはいやな汗が流れる。
お、オレ。理科の実験室にいる。
しかも、机の上にあお向けになっており、両手両足を縛られてる。
完全に、解剖する準備万端！！！
「ひいいい。怖えええ」
たけしはじたばたするがどうにもならない。何でオレ今カエルサイズになっとんねんや！！！
中学生がメスをたけしに向けてくる。
「うわああ。怖い。怖い。死にたくない」
周りではカエルの悲鳴が聞こえる。
「うぎゃあああああああ」
「む、むぎゃあああああ」
たけしは恐ろしくて恐ろしくてならない。ああ。何ということだ。
普段きちんと仕事してないからこんな目にあうのか。
中学生の一人が気づいた。
「あれ。この人、まさか、ジャットボーイたけしくんじゃね？？？」
「うそう。オレ、アニメ観てるぜ」
「あの。その。あなた、たけしくんですか？」
「そ、そうだよ。手足ほどいてえええええええええ」

「は、はい！」
たけしは何とか助かった。

3

たけしはいつの間にか元のサイズに戻っており、中学生たちといっしょに下校していた。
「たけしくん。よかったらうちで晩飯食べていきませんか？　うちの妹たけしくんの大ファンなんです」
「マジ？　ごちそうになっちゃおうかなあ」
たけしは、吉村くんの家へ行った。
「わあ！わあ！わあ！たけしや！ジェットボーイたけしや！」
吉村くんの妹のよし子が大興奮してる。
「こら。よし子。失礼な。たけしくんと呼びなさい」
「ごめんなさーい」
「いいんだよ。気を遣わなくても」
たけしはまんざらでもない。
しかも、よし子はめっちゃかわいくてボインだったのだ！！
その日の晩飯はとても愉快だった。たけしには家族がいないのでとても温かくて和んだし、吉村くんたちはホンモノのアニメスターとごはんが食べられるのでとても嬉しかった。
しかし、その夜がいけなかった。たけしは吉村くんの家に泊めさせてもらうことにしたのだが、みんなが寝静まりかえった深夜の二時。たけしは起き上がった。
トイレに行くふりをして、よし子ちゃんの部屋へ行き、いたずらしようとよからぬことを考えているのだ。
ああ。こうなるとヒーローじゃなくてただの変態だ。

4

ここでたけしがアニメスターである利点がなぜか発揮される。たけしは以前、ドラえもんにどこでもドアなどの秘密道具を借りていたのだ。
ポケットから四次元ポケットを取り出す。さらにその中からどこでもドアを出す。
たけしはドアを開いた。
ドアを出るとまさしくよし子の部屋であった。暗がりでよく見えないが女子の匂いがする。ぐっふふふふ。たけしは笑顔になってきた。タンスがあったので開けてパンツをポケットに入れた。笑顔、笑顔、百万ドルの笑顔である。
しかし、それもつかの間だった。
ベッドの上で、よし子が何者かに襲われていたのだ。口を押さえられてるので悲鳴も上げられない。見れば、窓ガラスがうまいこと円形に割られている。プロの仕事だ。
完全に違法侵入者である。
「だ、誰だ。てめえ」
「むう。ごっつめんどくさいぜよ」
「むがむがあ（たけしさあん）」
仕方ないのでたけしは、たけしパンチを食らわした。
一発で犯人はのびた。当たり前だ。たけしパンチは熊がシャケを獲る速さと同じスピードなのだ。
「たけしさん。ありがとう！」
よし子にちゅーされた。
「うへへへへへへ」
１１０番通報し、犯人はパトカーに乗せられた。
翌日、たけしは吉村家の家族みんなに誉められた。
「たけしさん、すごいんだよお。パンチ一発よお」

「おおう。わしも見てみたかったな」
「いっひひひ。それほどでも」
がしかし、吉村くんは頭がいい。
「なぜ、たけしくんがよし子の部屋にいたんだ？」
「えーっと。えーっと。そのう」
たけしは焦った。しかも、たちの悪いことにポケットからよし子のパンツが落ちた。
「！！！！！！！！！！！」

5

たけしは、吉村家から放り投げられた。
「この変態野郎！二度とうちの敷居をまたぐな！」
「たけしくん、見損なったよ！」
「たけしさんのバカあああ」
「あはははは」（お母さん）
たけしはアスファルトにうつ伏せになり、ううと泣く。
「ちきしょう。ヒーローが何でこんな目に。犯人倒したじゃんよう。ううう」

ＣＭ
美女の涙を集めて作った特製ジュース「涙スカッシュ」新発売！
これを飲むと何だか切ない気分になるかもしれないよ。感情に飢えてる現代人にピッタリだね！

しばらくすると、アスファルトに倒れるたけしの前に、太ったおじさんが立っていた。
誰だろう？？？？
そのおじさんはすんげえデブ。そして、すっぱだか。あそこにはモザイクがかかっている。背中から羽根を生やし、頭には輪っかが浮いている。
「おじさん、誰？」
「よくぞ聞いてくれますた。そうです。あたすが天使のおじさんです」
ああ。わかったぞ。いわゆる精神異常者だ。早く逃げないと。
でも、さっき体を思い切りアスファルトに打ちつけて痛くて動きにくい。
「少年よ。このハンカチで涙をおふき」

「あ、ありがとございます」
意外と優しいとこがあるね。
「お前、どっかで見たことあるなあ」
まあ。アニメスターだからねえ。全国区やからねえ。
「よっしゃ。お前なんで泣いてるかわからんけど、おっちゃんがスターにしたる。おっちゃんの訓練は厳しいぞ。ついてこれるか？」
えええええええ。勝手に話進めてる。
たけしは、天使のおっさんのアパートへ行った。
「まあ。お入り。コーヒーでも入れるわ」
「おじゃましまーす」
四畳半の普通の部屋だった。なんかようわからんが、壁に若き日の三枝師匠の巨大ポスターが貼ってある。
「まあお飲み」
「ども」
たけしは、コーヒーをすすった。
とその時であった。
たけしの頭から煙が出てきた。
「？？？？？」
そして、ばんという破裂音がし、たけしはぶっ倒れた。
「どないしたんや坊主！おい！しっかりしろ！」
説明しよう。たけしは、普通の人間と違う。半分ロボットなのだ。食事をとる時、きちんと「食事ボタン」を押さないと、飲み物や食べ物がボックスに集まらずに機械部分に紛れ込み、故障の原因となるのだ。たけしは、うっかりボタンを押し忘れたわけである。
「おーい！坊主！おーい！」

6

たけしはロボット病院に運ばれた。
「たけし！しっかりするんだ！しっかり！」
「天使のおじさん。今から手術するので離れてください」
「たけしいいいいいい」
結局、たけしは、余命一ヶ月となってしまった。
ベッドの上。
「そっかあ。ぼく、あと一ヶ月の命かあ」
「うう。たけし。死なないでくれよう。うう」
「おっさん泣くなよ。これも天命さ。アニメの人気も低迷してたから自然な流れかもしれんね」
「うう。たけしい」
天使のおっさんは涙をぽろぽろ流しながら、りんごをナイフでむく。
「りんごむけたぜ」
「ありがとう。むしゃむしゃ、どん！」
また手術室に運ばれた。
結果、余命一週間になってしまった。
「わしのバカ！バカ！バカ！」
自分の頭をぐーで殴るおっさん。
本当にあんたバカだよ！学習能力ないんかい！
もちろん、たけしも！

7

たけしと天使のおじさんは、一週間でより多くの悪者を倒すことにしようということで、おじさんはたけしを病院から連れ出した。
「誰から倒す？」
「政治家とかは難しいからなあ。まず弱そうな悪者から倒すぞ」
「いいね！」
たけしとおじさんはまず児童ポルノ制作者を倒すことにした。ニュースでそういうのがやってたのだ。
しかし、どこにいるかようわからん。
二人はエロＤＶＤ店に入った。そこにはものすごい数の児童ポルノがあった。
たけしと天使のおじさんは、その中でもとびきりかわいかったロリ華という小学生のＤＶＤを買った。
家で見ると、二人はただちにロリ華のファンになってしまった。
「ああ。ロリ華ちゃんの新作観たいなあ」
「そうだねえ。あ。いかんいかん！」
おじさんはたけしのほっぺたを叩いた。
「な、なにすんだよう。おっさん」
「目的を忘れるなアホ！」
お前もだろ、おっさん！
「このＤＶＤに記載されてる住所に行ってみよう。制作者を倒すんだ」
「倒したら、ロリ華ちゃんの新作が見られないじゃないか」
「それでいいの！」
たけしとおじさんは電車に乗り何駅か越えて、プリン駅に降りる。
「このへんかなあ」
「あ。あそこだ」
そこは実にボロいアパートであった。

「なんやあれ。めちゃボロいやんけ」
「貧相だなあ」
階段で二階へ上ると、三番目のドアに「株式会社エロちびっこ」とマジックで書かれた紙が貼ってあった。
「間違いない。ここだ」
「めちゃくちゃに殴ってやる」
ぴんぽーん。
「はーい」
ドアが開いた。
二人はびっくりした。
「「ロ、ロリ華ちゃん！！！」」

8

部屋に入り、コーヒーをもらう。
「ずずず。で、ロリ華ちゃん。社長はどこよ」
「あたしよ」
「ぶーーーーーっ！！！」
え。え。え。ロリ華ちゃんが社長？？？
天使のおじさんがロリ華ちゃんを見てうっとりしてる。おい。こらおっさん。ロリ華ちゃんは小学生だぞ。
「ど、どういうこと？なぜ社長？？？」
もっとエロなおっさんが社長かと思った。今の天使のおっさんのような。
「なぜと言われても。今って不況でしょ。結婚できない貧しい労働者が多いでしょ。そういう人たちを少しでも癒せたらなと思って。でもロリ華、まだ小学生だから児童ポルノくらいしか仕事できないの」
「ほう。ほう。なるほど」
気持ちはわかるが。いいのか？？？
「うーん。なにはともあれ、ロリ華ちゃんを倒すことはできんなあ」
「倒すって？」
「いや。ははは。何でもない。はは」
「ロリ華ちゃん、困ったことない？」
「それが、最近、警察に狙われてるの。やはり児童ポルノは違法ギリギリだから、警察も取り締まりを強化してるようね」
ほっ。やっとおまわりさんが動いたか。安心。安心。
「でもあたし、廃業なったら児童擁護施設のみんなが困る。あたし、稼いだお金をあたしを世話してくれた施設に寄付してるんだもの。警察がにくいわ。殺したいわ」
「ほ、ほう」

「警察のせいで、施設の子が餓死したらどうすんのよ！殺してやりたい！」
「そうだ。そうだ。警察は無情だ！」
お、おっさんまで。てか、ロリ華ちゃんの胸をがん見しながら言ってるし。

結局、何が何だかわからんが、流れで、三人で協力して警察を倒すことになってしまった。なんでやー！

9

まず、いつもロリ華ちゃんの部屋に入っていろいろうざいことを聞いてくるという警官のやまもっさんの家を燃やした。たけしの目はビームになっており、それを当てれば一発で燃える。
「うわああ。本当に燃やしてしまった。いいのかよ」
「うはははは。おもろい。見ろ。警官の悲鳴が聴こえるぜ」
「いいのよ。いいのよ。だってあの人いろいろうざいことあたしに聞いてくるんだもの。学校ちゃんと行ってるのかとかさ、悪い大人にだまされてんじゃないのかとかさ。うっとおしい」
「普通の質問だと思うが」
やまもっさんは消防車が来る前に焼け死んでいた。
たけしたちは、警察に見つかるといけないので、裏山にある洞窟の中でロウソクを立て、作戦会議をした。
「次はどいつを殺す？」
「ロリ華ちゃん、目が怖い」
「オレ、一応、正義の味方なんだけどなあ」
「あら。警察が正義だなんて誰が決めたの。あいつらが勝手にそう思ってるだけじゃん」
「でもおまわりさん、日々がんばってるじゃないか」
「じゃあ聞くけど、イラクを侵略した米軍は正義だって言うの？」
「は？」
「アメリカは警察のつもりよ。同時多発テロをやられて少しアメリカ人が死んで、テロリストがイラクにたくさんいるかもしれないという理由でイラクを攻撃したわ。その際、罪のない子どもがたくさん死んだわ。過去に我々の国に原爆を落としちびっこを含め何十万人と大量虐殺した国が正義なんて意味わからんわ。それに、実際は石油のためだしね。それに、大量破壊兵器があるかもしれないって理由もあったけど、それ見つからなかったし、だいたい、核弾頭を

何千発も持ってる国がそんなこと言うのっておかしくね？連続強姦殺人犯が「児童ポルノはやらしいからけしからん」て言うようなものよ。だいたい、アメリカはイスラム文化を破壊しようとしてるのよ。でもビンラディンたちは武器をあまり持ってない。米軍と戦争しても負ける。だから、アメリカと戦うために自爆テロくらいするの当然じゃない？あたしだって、アメリカが日本を侵略しようとしてきたら自爆テロくらいやるよ」

たけしは驚いてしまった。小学生がなんちゅう危険なこと考えてるんだ。アメリカ様あっての日本だぞ。

たけしが怒鳴ろうとしたら、天使のおっさんがロリ華ちゃんを殴った。

「い、痛いわね！」

「バカヤロウ！ロリ華！オレたち、日本人はアメリカ軍がいないと生きていけねえんだ。だから、沖縄で少女が米兵にレイプされても我慢せえ！それに、カネで国が守れるなんて安いもんじゃねえか！アメリカの貧乏な若者の血を流して国が守れるなんて最高じゃん！そんなこともわかんねえのか！ガキだな！」

うわあ。それも間違ってる気が。いや～な大人だなあ。

てか、オレ、アメリカの若者、日本人のために死ぬ気なんてないと思うけどなあ。北朝鮮の軍が原爆を東京に落としたあと、ピョンヤンを空襲してちびっこを含め大量殺害し、米兵は一人の犠牲も出さずに占領してアメリカ化するってシナリオだと思うけどなあ。

10

結局、その後、三人は逮捕された。当たり前だ。

ロリ華はちびっこ刑務所に、二人は、フィクションキャラクター専用の刑務所にそれぞれ入所した。

ロリ華たちが警官の家を燃やし、ロリ華がアメリカ批判をぶっこいた回の「ジェットボーイたけし」の放映後、テレビ局にはクレームの電話がサットーしてる。

「日米同盟が悪いカンジになったらどうするんですか！」

「子供がマネして放火したらどう責任とるの！」

「マヨネーズかけて食べればいいでしょ！」（何か間違い電話が一件）

制作者たちは応対にわちゃわちゃしていた。

「たけしを早く刑務所から出して謝罪会見させんと！てか、主人公がいなきゃアニメ放映できない！」

悪者の妖怪や怪物たちはしばらく無職になるため、おのおのバイトを始めた。

しかし、そんなのカンケーなく、たけしと天使のおっさんはけっこうのんきだった。刑務所内での農作業や工場勤務はけっこうつらかったが食事がいい。

本日の献立

【朝食】

海苔。ソーセージ。W目玉焼き。キャベツの千切り。豚の角煮。ごはん。味噌汁。漬物。

【昼食】
担々麺。炒飯。餃子。アイスコーヒー。杏仁豆腐。

【夕食】
松阪牛のサーロインステーキ。ライス（あるいはパン）。スープ。
海鮮サラダ。ビール。アイスクリーム。

充実した刑務所ライフを送っていた。テレビ（仕事）のことなどすでに忘れてる。
鉄格子の向こうでは月が舌打ちしてる。
羽毛布団で寝ようとした時、たけしのケータイが鳴った。
「あ。ロリ華ちゃんからメールだ。なになに。やまもっさんの幽霊がエッチなことをしてきて困ってる。だって？」

11（完結）

「あの野郎。しつこいな」天使のおっさんは、行こうぜと言った。
「よし」
たけしは怪力で壁をぶっ壊し大穴を開ける。そこから、地面を蹴り、ジェット噴射で飛び立つ。天使のおっさんも羽根をばたつかせ、ついていく。看守は人間だからどうにもならない。対応のしようがない。
ものすごいスピードでちびっこ刑務所を目指す。みんな寝てるので街も暗い。
下では道路工事をしている。
「あったけしや」
「おのれ。仕事（テレビ）をさぼりやがって」
なんと道路工事をしていたのは、職がなくなった怪物や妖怪たちであった。
怪物妖怪たちは、飛び上がり、火を吐いたり木刀を振り回したりしながら、ものすごいスピードで二人を追いかけた。
「わわわわ。たけし。追いかけてくるぜ」
「めんどくせえぜよ」
そのとき、たけしに異変が起こった。
「あ、あれ」
なんだか体が重い。力が出ない。
思い出した！
オレ、余命一週間なんだった！！！
気づくのが遅すぎる。たけしは落下した。「たけしいいいいいいい」
下は原子力発電所だった。なぜ！
「これはやばい」
妖怪怪物たちは焦った。

「ふろしき用意しろおおお」
「おおおおおおおおお」
落下するたけしを先回りし、妖怪怪物たちは協力して、原発のちょうど真上に大きな大きなふろしきを広げた。
たけしがふろしきに包まれた。
「やったぜ」
「イエーイ」
妖怪怪物たちはハイタッチした。
なんか妖怪怪物ってどんなんか知りたいんですけど。
作者があまり詳しくない。映像化するときは、荒俣先生に美術監督を頼む！！！
天使のおっさんは感心してる。「こいつらなかなかやるな」
しかし、ロリ華のことを思い出す。
「お。こうしちゃおれねえ。おい。みんな。頼みがあるんだ」
「なんだよ」
妖怪怪物たちは快く引き受けた。
「子どもたちはわしらにとってお客さ。助けてやるぜ」
「ありがとう。ありがとう」
「ははははははは」
みんなで大笑いしていたら、ふろしきのことを忘れていて、たけしを落とした。
どおおおおおおおおおおおおおおおおおん。
原発が大爆発して、その一帯は最悪な事態になった。無論、天使のおっさんや妖怪怪物たちはフィクションキャラなので全然平気だ。
「あわわわわわ。えらいことになってる。放射能がばらまかれてるよ」
「たけし、完全に死んだな」
「まあ気にするな。そんなことよりロリ華ちゃんを助けるのが先決だ」
東京上空をものすごいスピードでちびっこ刑務所へ向かう。

ロリ華はその頃、独房でやまもっさんの幽霊と将棋を差していた。
「王手！」
「わっちゃあ。ロリ華ちゃん。つよーい」
「えへへへへ」
やまもっさんはさびしかっただけのようだ。

おしまい

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6254l/

ジェットボーイたけし

2010年10月8日23時19分発行